



特集

## 神戸大学の多機能練習船 「海神丸」デビュー

～未来の「海」を担う人材育成、探査観測や災害支援にも活用～

神戸大学(神戸市灘区)の新しい練習船「海神丸」が誕生、深江キャンパス(東灘区)のポンドにその雄姿を見せています。同大学大学院海事科学研究科の所属で、今年4月、運用を開始しました。

34年間、活躍した練習船「深江丸」の代替船で、2020年に三井E&S造船に発注され、岡山県玉野市のドックで建造。同社から艦艇・官公庁船事業を譲り受けた三菱重工マリタイムシステムズで、2021年10月、命名・進水式を行い、内装工事などが進められていました。

「海神丸」は全長約59.60m、幅約11.00m、総トン数約892トンで、「深江丸」(同449トン)より大型化。運航管理を海事科学研究科が担い、海技者養成をはじめとする人材育成や、探査観測を活用した学内の研究活動、さらには産官学の連携研究、災害時の支援などに対応できる最新設備を備えた多機能練習船です。

世界の海事・海洋分野での幅広い活動が期待されています。

**起工式**

2021年2月19日、岡山県玉野市で起工式が行われ、建造がスタート。

**2022年4月より本格運行**

# 「海神丸」 誕生まで

**命名・進水式**

「海神丸」の命名・進水式は、2021年10月8日、快晴のもと、三菱重工マリタイムシステムズ玉野事業所(岡山県玉野市)で行われました。式には神戸大学や造船所の関係者約140名が参加。まず、神戸大学の藤澤正人学長が「本船を海神丸と命名する」と宣言。名称は「海の神戸大学」にちなんで名づけられました。

続いて、海事科学部の学生、遠藤奈央さんと安留未紗さんの手で支綱が切断され、汽笛とともにおごそかに進水、大きな拍手に包まれました。

**入魂式**

2022年3月18日、海神丸の神棚に航海の安全を祈願し、精魂がつぎこまれる入魂式が執り行われました。香川・金刀比羅宮のお札が祀られています。

**深江入港**

2022年3月22日、玉野を出港し、午後、ついに深江のポンドに入港。

**引渡式**

2022年03月23日、三菱重工マリタイムシステムズと神戸大学との間で、「海神丸」の竣工引渡式が、深江キャンパスで行われました。藤澤正人学長ら大学関係者、調枝和則社長ら三菱重工マリタイムシステムズ関係者が出席。海事科学研究科附属練習船として、4月から運用開始。

## さよなら「深江丸」

前練習船「深江丸」は、1987年に誕生。神戸高等商船学校時代の1927(昭和2)年1月に進水した汽艇実習船「深江丸」から数えて4代目となります。以来、2020年末までで総航程(航走距離)は、39万5,135km(地球を南北に約9.9周する距離に相当)、乗船者数6万3,614人となり、多くの海技士の育成や海洋底探査などの調査研究を支えてきました。

2021年11月4日、惜しまれつつ最終運航を行い、2022年3月15日、深江のポンドから旅立っていきました。

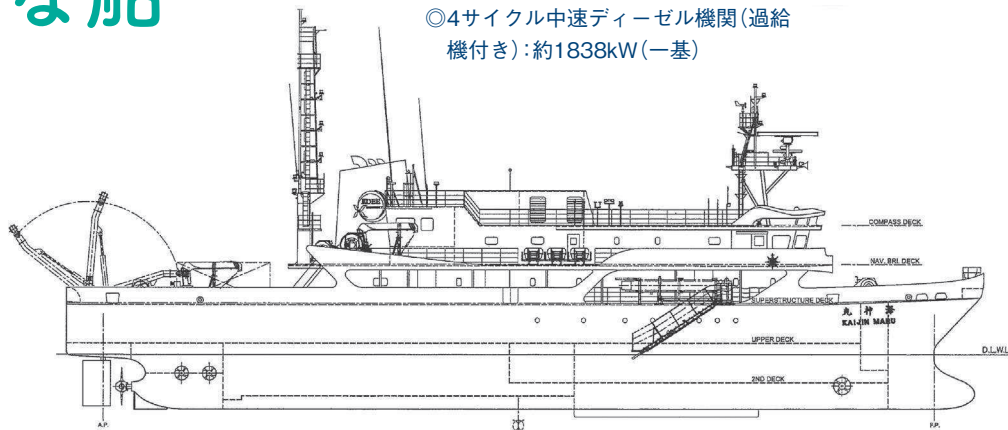


# 「海神丸」は こんな船

## 【主要目】

- ◎全長:約59.60m
- ◎幅:11.00m
- ◎深さ(船楼甲板):6.70m
- ◎総トン数:約892トン
- ◎4サイクル中速ディーゼル機関(過給機付き):約1838kW(一基)

- ◎航海速度(満載状態、主機関80%負荷、ノーシーマージン):約12.0ノット
- ◎航続距離(約10ノット):約5000海里
- ◎最大搭載人員:65名(士官8名、部員3名、教員6名、学生48名)



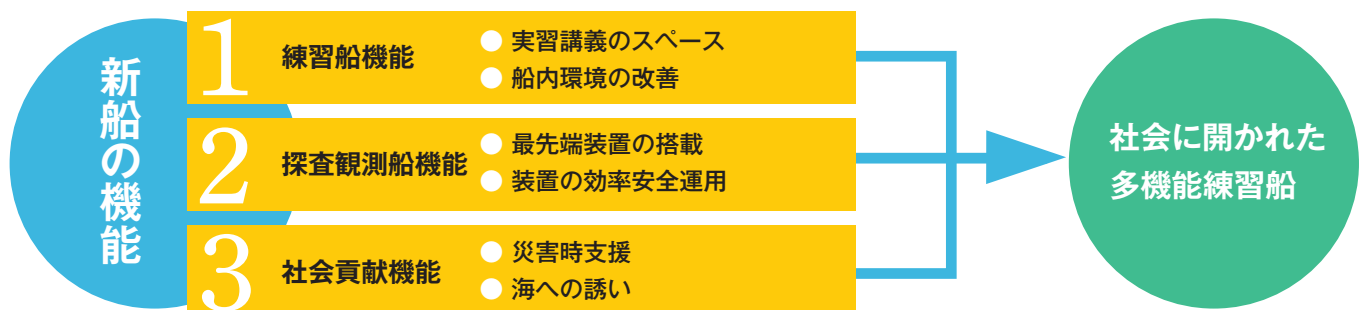
## 充実の機能

さまざまな機能が飛躍的にアップしています。高度機能集約型船橋システムで、機器などは大型外航商船で用いられているもの、エンジンも次世代型環境対応で音も静かです。情報通信システムは船内LANに加えて衛星通信の2系統を搭載し、大容量のデータ送受信に対応できます。船上データが一元化され、船内各所でリアルタイムにデータ共有ができるシステムです。また、調査、観測機器も高度化され、研究室が充実。新型コロナウイルスなど感染症対策のため、強制換気システムを備え、壁や什器類はすべて抗菌加工が施されています。

## 白いイルカを モチーフとした船体

船のコンセプトデザインは、世界的な工業デザイナー、奥山清行氏が率いるKEN OKUYAMA DESIGNが担当。船体デザインは白いイルカをモチーフに。ブリッジやデッキの濃紺が映えます。

## 全国でも珍しい3つの機能を持つ練習船



### 第1 練習船機能

長年培われてきた海技者養成をはじめ、学部、大学の枠を超えて、海事・海洋分野の発展、地球環境保全を牽引する役割を担える人材の育成を目指します。

多人数が使用可能な実習・演習用スペース、講義室などが備えられています。

文部科学省に認定された教育関係共同利用拠点として、全国の大学の学生を対象に、実習・演習・実験などの場としても提供。8月に帝塚山大学、甲南大学、中京大学及び大阪大学が利用予定です。

### 第2 探査観測船機能

多角的な海域探査や観測に必要な最先端装置を搭載しています。

鹿児島県・薩摩半島沖の海底火山「鬼界カルデラ」や、大阪湾の海底活断層の探査研究を行う予定です。

### 第3 社会貢献機能

巨大災害の発生時に、被災地への災害支援活動を行えるよう、1日10トンの造水機能、支援物資を輸送するコンテナを設置する場所、ヘリコプターでの物資輸送が可能な場所、上空から物資の積み下ろしができるドローン利用エリアも備えています。※神戸大学は神戸市との連携に関する協定書を結んでいます。

さらに、「海神丸」が海への関心を持つきっかけになればと、イベントや情報発信などを積極的に展開していきます。今夏には東灘区内の小学生、尼崎市の高校生らの見学などが予定されています。



海神丸での実習風景

## 動線に配慮、 居住区も快適な船内

船内は、各研究室が作業動線上に配置され、最適な研究、観測作業が行えるようになっています。講義室も多彩なレイアウトが可能です。

男女共同利用に配慮して、学生の居室は4人／8人部屋と少人数化、多室化に。女性用トイレやシャワーも拡充されています。居住区は暖色系の色合いで、LED照明を採用してより明るく。振動や騒音も抑えており、快適な住環境へと改善されています。



操舵室



ドライラボ



乗組員食堂



学生教室兼食堂



学生居室



デッキは、ヘリコプターでの物資輸送に対応しています



船の伝統文化「花毛布」が、居室を彩ります



厨房は元フレンチレストランのシェフが担当。機器も充実。「おいしい!」と大評判



藤本船長(写真左)と尾崎機関長

### 藤本昌志 船長

日本の社会生活を支えているのは、海運だと思っています。船の往來がストップしてしまったら、日本は立ち行かなくなります。そこを皆さんにもっとご理解いただけるよう、伝えていきたいですね。「海神丸」をきっかけに、船にも海運にも興味を持っていただけたら嬉しいです。

### 尾崎高司 機関長

船のエンジンは世界一大きなエンジンなんです。それを扱うマリンエンジニアは、縁の下の力持ち的存在で、船をしっかりと支えていく、やりがいのある仕事です。世界一でかいエンジンを扱う醍醐味を一人でも多くの若者に、ぜひ味わってほしいですね。